

NO. 1

~~新案~~

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-25802

(43)公開日 平成6年(1994)4月8日

(51)Int. CL <sup>3</sup>	最前記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 B 5/00	3 3 1	6620-2K		
G 0 2 F 1/1335	5 3 0	7406-2K		

審査請求 未請求 請求項の数3(全 3 頁)

(21)出願番号 実開平4-61246

(22)出願日 平成4年(1992)8月31日

(71)出願人 600001225

株式会社コバル

東京都板橋区志村2丁目16番20号

(72)考案者 吉川 幸雄

東京都板橋区志村2丁目16番20号 株式会

社コバル内

(72)考案者 中村 繁和

東京都板橋区志村2丁目16番20号 株式会

社コバル内

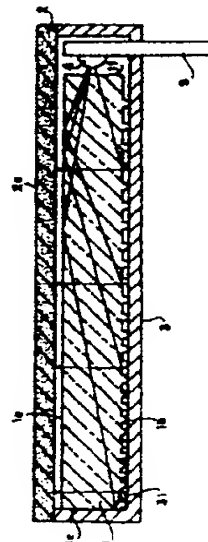
(74)代理人 弁理士 大塚 康雄 (外1名)

(54)【考案の名称】 面発光装置

(57)【要約】

【目的】 発光面が均一な明るさの面発光装置を提供する。

【構成】 LED4から発した光は導光板1に入射される。導光板1内に入射された光は上面1aや底面1bで全反射され、あるいは反射棒3で反射されて凸部31に当たる。凸部31は底面と共に成型されており、漏斗形状をしている。凸部31に当たった光は反射されて上面1aから出射し、被照板2で被照されて対象物を照らす。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 発光面の側方に配置された光源からの光を前記発光面から出射する面発光装置であって、発光面と対向する底面側に、微小な凸部で形成した反射形状部を、その密度が前記光源からの距離に応じて漸増するように配設した透明な導光板を備え、前記光源から入射された光を前記反射形状部により反射して前記発光面から出射することを特徴とする面発光装置。

【請求項2】 前記反射形状部は、前記光源から遠ざかる向きについて千鳥格子状に配設することを特徴とする請求項1項記載の面発光装置。

【請求項3】 前記反射形状部はその頂から底面側に連なる連傾部を曲面で形成した微小な凸部であることを特

\* 徴とする請求項1項記載の面発光装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施例である面発光装置の断面図である。

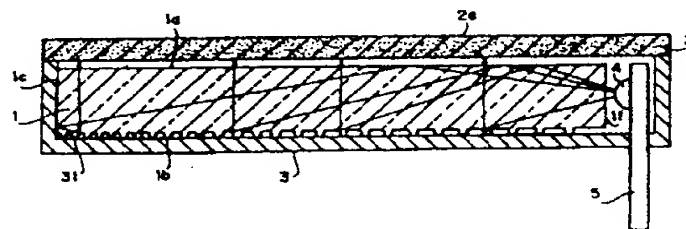
【図2】 面発光装置の上面図である。

【図3】 導光板の底面の拡大図である。

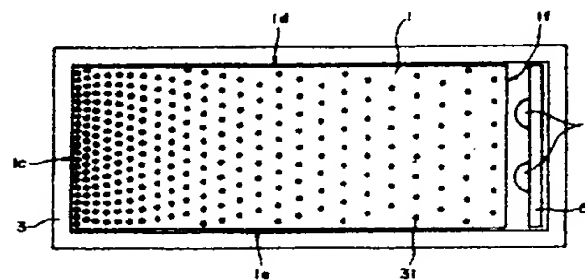
【符号の説明】

- 1 導光板、
- 2 拡散板、
- 3 反射体、
- 4 光源、
- 31 凸部である。

【図1】



【図2】



實開平 8-25802

{ 3 } -

